

農業環境技術研究所・標本シリーズ4：コウチュウ目

NIAES Collection Series 4: Coleoptera

吉武 啓*・中谷至伸*・吉松慎一*

Hiraku Yoshitake, Yukinobu Nakatani and Shin-ichi Yoshimatsu

1. はじめに

農業環境技術研究所昆虫標本館には、既に本誌第1号（安田, 2002）および第3～6号（安田ほか, 2004、中谷ほか, 2005、吉松ほか, 2006、吉松ほか, 2007）において紹介されたように、農業生態系に生息する種を中心に120万点を越える昆虫標本が保管されており、その中には、多数の甲虫類（コウチュウ目）の標本が含まれている。本稿では、標本シリーズ第4回として昆虫標本館所蔵の甲虫標本コレクションの概要を紹介した上で、今後の標本管理に関する展望を述べたい。

2. 昆虫標本館所蔵の甲虫標本コレクションの概要

当館には、24万点以上の甲虫標本が収蔵されている（図1）。その中には237点以上のタイプ標本が含まれ、大部分の標本情報がデータベース化および一般公開されている（中谷ほか, 2003; <http://cse.niaes.affrc.go.jp/nakatany/inssys/coleolst.htm>）。上科または科レベルで整理された主要分類群毎の標本点数の内訳は表1に示した通りであり、多くの農林業害虫を含む植食性甲虫（タマムシ科、カミキリ科、ハムシ科、ゾウムシ上科）や環境指標性の高いオサムシ科甲虫の占める割合が大きいことが特色である。また、当館の甲虫標本コレクションを構成する主要コレクションとその標本数を表2に示した。以下、各コレクションの概要を述べる。



図1 甲虫標本コレクションの収蔵状況

表1 主要分類群の標本点数
(整理済み標本のみ)

分類群	標本点数
ハンミョウ科	1,502
オサムシ科	46,489
ハネカクシ科	3,872
クワガタムシ科	3,313
コガネムシ科	15,619
タマムシ科	1,741
コメツキムシ科	3,847
カミキリムシ科	28,030
ハムシ科	14,934
ゾウムシ上科	30,313

表2 主要コレクションとその標本

コレクション名	標本点数
土生昶申コレクション	23,786
田中和夫コレクション	13,864
野淵輝コレクション	20,107
藤村俊彦コレクション	27,759
湯浅啓温コレクション	12,355
桑山覚コレクション	2,022

*農業環境インベントリーセンター

Natural Resources Inventory Center

インベントリー, 第7号, p29-32 (2009)

1) 土生コレクション

当館の前身に当たる農業技術研究所昆虫同定分類研究室の主任研究官であった故・土生昶申（はぶ あきのぶ）氏の標本コレクションである（図 2）。オサムシ科甲虫が中心であり、ホロタイプ 187 点をはじめ、同氏による日本産ゴミムシ類の分類学的研究（Habu, 1967, 1973, 1978 など）の証拠標本が含まれている。その学術的価値の高さから 2004 年以降優先的に本コレクションのデータベース化を進めた結果、これまでに画像を除く標本情報のデータベース化がほぼ完了した（22,699 件）。

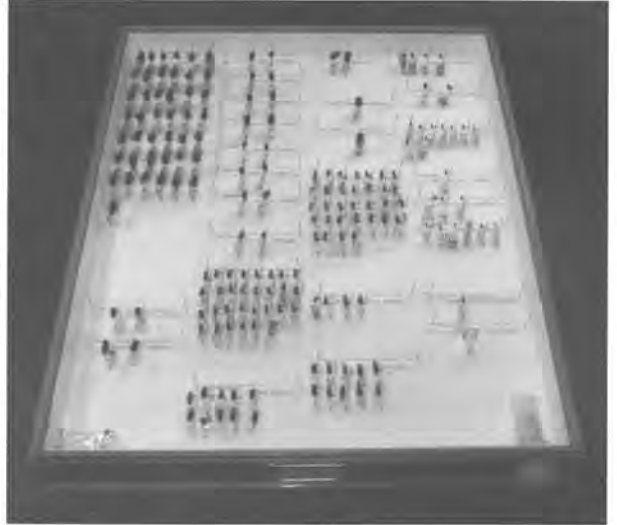


図 2 土生コレクションの一部（ナガゴミムシ類）

2) 田中コレクション

U.S. Army Medical Laboratory, Pacific の元 Entomologist であり、カとゴミムシの研究者として著名な田中和夫（たなか かずお）氏から寄贈されたオサムシ科甲虫のコレクションであり、日本産ゴミムシ類のホロタイプ 24 点をはじめとする学術的価値の高い標本が多数含まれている。現時点での総数は 13,864 点だが、ご本人による整理が終わった標本を 2003 年から順次受け入れており、今後も相当数の標本が追加される予定である。前述の土生コレクションと共に、我が国におけるゴミムシ研究に欠くことのできない重要なコレクションである。これまでに 1,169 件の標本情報のデータベース化が完了している。

3) 野淵コレクション

農林省林業試験場保護部昆虫第二研究室長であった故・野淵輝（のぶち あきら）氏によって収集されたキクイムシ科とナガキクイムシ科を中心とする標本コレクションであり、50 点のタイプ標本が含まれる（図 3）。1991 年に同試験場の後身である森林総合研究所から当館に移管された。木材害虫が数多く含まれる両科のコレクションとしては世界有数の規模であり、森林資源管理や植物防疫上の重要性が非常に高いため、近年は本コレクションのデータベース化を優先的に進めている。これまで 6,000 点分のデータ入力を終えている。

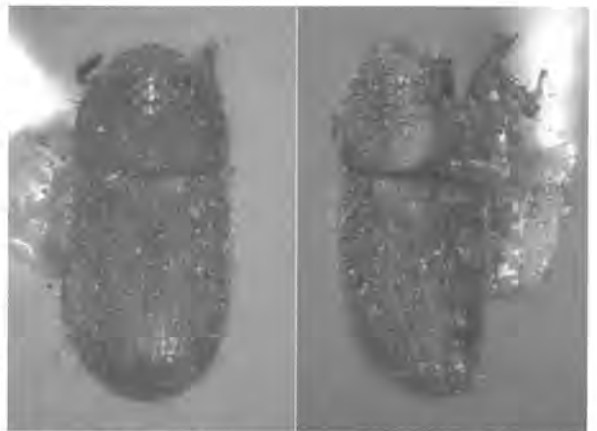


図 3 フクギノコキクイムシのタイプ標本

4) 藤村コレクション

沖縄県石垣島在住の昆虫研究家である藤村俊彦（ふじむら としひこ）氏から 1997 年に寄贈されたコレクションである。国内外から収集された多数の甲虫標本が分類群を問わず含まれ

ているが、とくに多くの樹木害虫を含むカミキリムシ類のコレクションが充実しており、ヒトオビチビカミキリ *Sybra unifasciata* Fujimura のホロタイプや、世界に数頭しか標本のない稀種 *Megopis terminalis* (Gahan) (図4) の標本など学術的に貴重な標本が数多く含まれている。

5) 湯浅コレクション

農林省農事試験場害虫部長、農業技術研究所総務部長(病理昆虫部昆虫科防除第2研究室長と併任)を歴任された故・湯浅啓温(ゆあさ ひろはる)氏の標本コレクションである。主として農業害虫の標本で構成されており、応用昆虫学分野において利用価値の高い貴重な資料となっている。とくに、同氏が研究対象とされていたハムシ科やタマムシ科を中心とする甲虫コレクションが充実している。



図4 農環研所蔵の *Megopis terminalis* ♂の標本

6) 桑山コレクション

農林省北海道農業試験場長を務められた故・桑山覚(くわやま さとる)氏の標本コレクションである。1989年に同試験場から当館に移管された。同氏は「南千島昆虫誌」(桑山, 1967)の著者として著名な方であり、同誌に掲載された昆虫類の記録の証拠となる南千島産甲虫類の標本2,000点余りが含まれる(図5)。戦後、日本人研究者が南千島において学術調査を行うことは極めて困難になったため、当地の昆虫相を知る上で大変貴重な資料と言える。これまでに全体の約半数に当たる1,000点について、画像を含む標本情報のデータベース化が終了している。

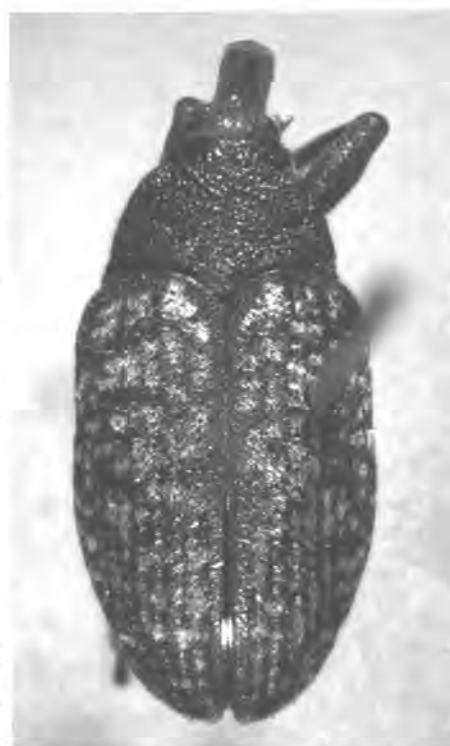


図5 色丹島産オオゴボウゾウムシ

3. 今後の標本管理について

全体的に見ると、当館の甲虫標本コレクションは、鱗翅類や半翅類などのコレクションよりも整理が遅れていると言わざるを得ず、目レベルでの類別が済んでいない標本も相当数あるため、コレクションの規模を正確に把握することすら困難であるのが現状である。このような未整理標本を一次資料として有効に活用するためには、上科や科、亜科など高次分類群レベルでのソーティング(仕分け)作業を何よりもまず進める必要がある。また、大まかなソーティングの済んだコレクションは、さらに族や属、種と同定精度を高めることで、データベース化が可能な状態にしなければならない。しかし、下位カテゴリーまでの同定作業には多大な労力と時間を要するため、短期的には、対象群を限定した上でその整理に重点的に取り組むのが現実的である。当館の甲虫標本コレクションの中では、多くの農林業害虫や生物的防除資材を含む植食性甲虫や環境指標性の高いオサ

ムシ科の優先順位がとくに高いと考えている。一方、最も重要な参照標本であるホロタイプはもとより、上述の主要コレクションのような整理済みの標本については、これまで同様に学術的価値の高いものから逐次データベース化と一般公開を進めて行くことで、当館所蔵の標本情報の利用促進を図って行く予定である。また、多方面からの同定依頼に迅速に対応可能にするため、専門家によって正確に同定された甲虫標本を交換や寄贈などを通じて積極的に入手することにより、同定作業の効率化に資する参照標本コレクションを充実させたいと考えている。

4. 謝辞

本稿を草するにあたり、服部伊楚子氏（調布市）、松村雄氏（那須塩原市）、安田耕司氏、宮崎昌久氏、井澤真知子氏（農業環境技術研究所）、小西和彦氏（北海道農業研究センター）、前原一慶氏、中西洋介氏（筑波大学）に種々ご協力いただいた。末筆ながら記して感謝の意を表したい。

引用文献

- 桑山 覚(1967) 南千島昆虫誌, 北農会, iv+ 225 pp., 6 pls.
- Habu, A. (1967) Fauna Japonica, Carabidae, Truncatipennes group (Insecta: Coleoptera) xiv+ 338 pp., 27 pls., Keigaku Publishing Co Ltd.
- Habu, A. (1973) Fauna Japonica, Carabidae: Harpalini (Insecta: Coleoptera), xiii+430pp., 24 pls, Keigaku Publishing Co. Ltd.
- Habu, A. (1978) Fauna Japonica, Carabidae: Platynini (Insecta: Coleoptera), viii+447pp., 36 pls, Keigaku Publishing Co. Ltd.
- 中谷至伸・安田耕司・吉松慎一(2003) 農業環境技術研究所・昆虫標本館所蔵のタイプ標本とその活用について, インベントリー, 2, 46-48.
- 中谷至伸・安田耕司・吉松慎一(2005) 農業環境技術研究所・標本シリーズ 1: カメムシ類(半翅目異翅亜目), インベントリー, 4, 38-39.
- 安田耕司(2002) 昆虫標本館, インベントリー, 1, 52-56.
- 安田耕司・吉松慎一・中谷至伸(2004) 昆虫標本館—最近の寄贈標本について—, インベントリー, 3, 51-52.
- 吉松慎一・安田耕司・中谷至伸(2006) 農業環境技術研究所・標本シリーズ 2: 佐藤力夫コレクション, インベントリー, 5, 47-48.
- 吉松慎一・中谷至伸・安田耕司(2007) 農業環境技術研究所・標本シリーズ 3: 中島秀雄コレクション, インベントリー, 6, 38-39.

問い合わせ先

農業環境インベントリーセンター 吉武 啓

電話 : 029-838-8348, FAX: 029-838-8354, E-mail : zomushi@affrc.go.jp